

2023年3月12日（日）主日朝礼拝説教

『マリアとユダ』井上隆晶牧師

詩編 55 篇 10～18 節、マルコ福音書 14 章 1～11 節

### ①【香油を注いだマリア】

イエス様の十字架の前に、マリアとユダという二人の人が登場してきます。この二人はとても対照的な信仰をしています。イエス様が死なれる六日前のことです。イエス様が食事の席に着いていた時に、一人の女性が（マリア）300万円以上する高価なナルドの香油を入れた石膏の壺を持って来て、それを割り、香油をすべてイエス様の頭に注ぎかけました。それを見て弟子たちは「なぜ、こんなに香油を無駄遣いしたのか。この香油は…売って、貧しい人々に施すことが出来たのに」

（4～5 節）といて彼女を厳しくとがめました。考えてみると非常に失礼な話です。マリアが自分の物である香油をどう使おうと彼女の自由です。それなのに弟子たちは他人の持ち物にまで指図しています。またイエス様に対してもっと失礼です。「イエス様に高価な香油を使うなんて無駄だ」といっているのですから。ここに弟子たちの高慢と偽善が隠れています。弟子たちはいつも「計算」で生きています。人を自分の役に立つかどうかで見えています。自分の夢を実現させる為に人もイエス様も利用しようとしているのです。こんな人は貧しい人も利用するに決まっています。

しかし、イエス様は「なぜ、この人を困らせるのか。私に良いことをしてくれたのだ。貧しい人々はいつもあなたがたと一緒にいるから、したいときに良いことをしてやれる。しかし、私はいつも一緒にいるわけではない。」（6～7 節）と言われました。イエス様が六日の後には、この世からいなくなり、もう会えないということがマリアには分かっていたのですが、弟子たちには分かっていませんでした。皆さんだったらどうですか。もうこの人には会えない、これが最後だと思う時、その人に精一杯の感謝を言葉で伝え、愛の行いをするのではありませんか。

●先日長野に帰省しました。田園を散歩したのですが、久しぶりに「音のない世界」を体験しました。聞こえてくるのは鳥のさえずりと、風の音と、木々の揺れる音だけです。都会は騒がしいです。こんなに騒がしくては、「神の声」は聞こえないでしょう。イエス様は何度も「自分は必ず殺される」と言っておられたのに、弟子たちは誰も聴いていませんでした。それどころかイエス様が王様になれば、自分たちは大臣になれると思っており、自分のことを考えるのに必死で、誰もイエス様の話を聞いていませんでした。目の前の本人が語っているのに聞かなければ、聖書を通して語っても聞かないでしょう。そのような弟子たちの中で静かにイエス様の話にじっと耳を傾けていたのがマリアでした。「マリアは主の足もとに座って、その話に聞き入っていた。」（ルカ 10 : 39）マリアだけがイエス様を理解していたのです。聖書の言葉は「聞き流す」のではなく、「聞き入る」ことが必

要です。

マリアはイエス様と共に歩いているように感じますが、弟子たちは別の道を歩いているように感じます。イエス様とマリアは十字架に向かう道を歩まれますが、弟子たちは栄光への道を歩いています。方向が全然違います。あなたはどこに向かって歩いていますか？

## ②【ユダの愚かさ】

この出来事の後、ユダはイエス様を裏切り、祭司長たちから銀貨 30 枚 (90 万円位) を受け取りました。これは奴隷の値段です。イエス様もすいぶん安く見積もられたものです。ユダはなぜ裏切ったのでしょうか。教父たちは口を揃えて「貪欲」のせいであるといっています。昔の祈禱文には次のように書かれていました。

●晩餐であなたと共に手を皿につけた不法なるユダは、銀を取るために不法な者に手を伸ばしました。香油の価を量った者は、価なきあなたを売り渡すことを畏れませんでした。洗うために足を伸ばした者は、偽って主に接吻しました。彼を不法なる者に引き渡すためです。

●「ユダは天の香油(イエス)を売って銀を自分のものとししました。…ああ、主を売る者の貪りよ、買う者の思いを迎え入れて、安物の商売を行う。売られざる者売り、価のことを議論しないで売る。なぜなら盗む者には尊きものを捨てる慣わしがあるからです。今、弟子は聖なるものを犬に投げ与えました。貪りが彼を、自分の主に対して狂わせたからです。」

●「ユダは貪りの病に暗くなって、義なる審判者であるあなたを、不法なる審判者に売り渡しました。宝に溺れる者よ、このために首をくった者を見よ。満足することを知らぬ魂よ、先生に対してこのようなことをすることを恐れない者を避けよ。」

ユダの愚かさとは何でしょうか。貪欲の恐ろしさは三つの悪を産みます。

①彼の愚かさの一つ目は「**恵みは無駄にした**」ことです。ユダは聖餐をいただいた手を銀貨に伸ばし、洗ってもらった足で祭司長たちの所に走って行きました。せつかくイエス様の近くにいて教えを聞き、たくさんの恵みをもらいながら、彼はそれに満足できなかったのです。なぜ満足しなかったのでしょうか。それは自分の夢という偶像にしがみつき、それを追いかけていたからです。貪欲は偶像崇拜に他なりません。

②彼の愚かさの二つ目は「**神の言葉を本気で聞いていなかった**」ことです。もしキリストの言葉をしっかり聞いていたら自殺することはなかったでしょう。主は「**人の子は三日目に復活する**」と三回も言われたのです。三日待てば復活したキリストを見ることが出来たのに、ユダは三日も待てませんでした。ユダは普段から、御言葉をどのように聞いていたのでしょうか。

③彼の愚かさの三つ目は、自死という方法で罪の処理しようとしたということです。ユダの罪は自殺ではなく、キリストに期待せず、彼に絶望したことです。

## ③【信仰の二つのスタイル】

ここまで話してきて、二つの信仰のスタイルがあることがお分かりでしょうか。マリアの信仰はキリスト中心の信仰ですが、ユダ（弟子たち）の信仰は自分中心の信仰です。マリアの信仰は、神が自分にしてくれることを喜ぶ信仰ですが、ユダの信仰は、自分の夢がかなえられることを喜ぶ信仰です。マリアは御言葉に聞き入りましたが、ユダは御言葉を聞こうとしませんでした。マリアはキリストに仕えましたが、ユダは自分の夢に仕えました。マリアはキリストに希望を持ちましたが、ユダは自分の知識に頼り絶望しました。

この後、イエス様は「世界中どこでも、この福音が宣べ伝えられる所では、この人のしたことも記念として語り伝えられるだろう。」(9 節) と言われ、マリアの行動を褒められました。マリアがしたことは、キリストが私たちにしてくれた福音のひな型だったからです。すなわちマリアが石膏の壺を割って、その中の香油を全部注いだように、イエス様は自分の体を十字架の上で壊し、自分の持っている愛と命と赦しを一滴残らず、全ての人に注がれたのです。ユダは「なぜ、こんなに香油を無駄遣いしたのか」といいましたが、本当に愛の無駄遣いをされたのは神様の方です。キリストの愛と命が豊かに注がれても、ユダは気がつかないからです。ユダも 100%の愛で愛されたのです。自分が溢れる愛で愛されていることを知ることは何と難しいことでしょうか。大事なことは、この大きな神の愛に気がつくということではないのでしょうか。

●東日本大震災から、11 日で 12 年を迎えました。ある記事を読みました。N さんの家は無事だったので、過剰に周囲に気を遣う生活を強いられ、N さんの母も朝から晩までボランティアに出かけ、被災者に多額の寄付をし、家計は一時、火の車だったといえます。N さんの父親は市の職員で、復興業務に追われ、自宅に戻れない日が続きます。N さんが父のいる避難所を訪れた際、「お前ら国民の奴隷なんだから寝ないで働け！」と、怒鳴られている父の姿を目撃し、悔しさで涙が止まらなかったといえます。それ以来、震災の報道をまともに見れないと言います。震災というと当事者である被災者が一番苦しむ訳ですが、それだけでなくその周りにいる人たちも同じように苦しむことを忘れてはなりません。苦しみのあまり、誰かに辛くあたり、被災者が今度は加害者になるということもあるのです。

人間というのは罪深いなと思いました。私は人間はやはり、人生の中に神を入れなければならないと思いました。神の目で物事を見、神に聞いて生き、神から与えられたものを、それがどんなものであっても素直に受け取る、そしてすべてに感謝する、それが神と共に歩む歩みだと思えます。弟子やユダたちは、信仰者らしく見えますが、結局、自分勝手に歩み、神と共に歩んでいないのです。貪欲＝偶像崇拝は、人の目をくらませ、満足することをさせず、周りの人を巻き込み傷つけます。マリアのように「その話に聞き入り」、恵みが見えるような生き方を選びたいと思えます。心が愛で満たされ、心が豊かであることが本当の幸せなのです。